

〔重修本草綱目啓蒙三十四〕靈貓○中

鼠ニ麝氣アルモノアリ、ジャカウ子ズミト云フ、諸州俱ニアリ、長崎及薩州ニハ殊ニ多シ、薩州ニテ琉球子ズミト呼常鼠ノ形ニシテ頭狹小、全身麝氣アリテ猫モ食フコト能ハズ、死シテ久キ時ハ香氣脱去ス、是香鼠ナリ、桂海虞衡志、及因樹屋書影ニ出、

〔西遊記三〕麝香鼠

薩州鹿兒嶋城下に麝香鼠といふものあり、水屋のもと床の下などに住て、其形鼯鼠に似て其糞甚臭し、少しじやかうの匂ひに似たり、故に麝香鼠といふ、食物をむさぼり、器をやぶりそこなふ事、常の鼠より甚し、膳碗飯びつなどに此鼠一たび入る時は、其匂ひ留りて幾度洗ひ清むれども去らず、此鼠又座近く出る時は、其にほひ鼻を穿てたへがたき程なり、其鳴聲甚大にして、雀の聲に似たり、それゆへ中山傳信録には、琉球の鼠は雀の聲ありと書置り、此鼠ももとは琉球の舟より渡り來り、今にては城下町々家々に甚多き事と成れりといふ、長崎にも唐船より渡り來りて、町家にも多くあり、されど薩州程は多からず、其外の國にてはたへて無き鼠なり、一説に阿蘭陀人は此鼠を以て煉り合せ、じやかうを造る法ありといふ、誠に秘法あらば、麝香にもなるべき程の強きにほひある鼠なり、

〔長崎聞見録一〕麝香鼠

麝香鼠はもと唐よりわたりたるものにて、長崎におふく、他國には見ぬものなり、このねすみくちばしながく香氣あり、晝眼見えがたく夜鳴、其聲鼯鼠に似たり、長崎の人此鼠の能なくを聞吉兆よるこぶなりとて

鼠害

〔續日本紀三十三〕寶龜六年四月己巳、河内攝津兩國有鼠、食五穀及草木、遣使奉幣於諸國群神、七月丁未、下野國言、都賀郡有黑鼠數百許、食草木之根數十里所、